

インテリアの国際見本市

南あわじのデザイナー・古田さん

若手部門に初の出展

インテリア専門の国際見本市「インテリアライフスタイル展」(6月1〜3日、東京)の若手デザイナー部門に、南あわじ市津井のデザイナー、古田恵介さん(35)が、香炉など4種類のインテリア用品を初めて出

展する。35歳以下の8組しか出場できない狭き門を突破。来年2月にドイツである、世界最大級の見本市への出場切符獲得に向け、入念に準備を進めている。

(橋本 薫)

来月、東京 35歳以下8組の狭き門

脚がなく壁に立て掛けて使う インクチェアなど、これまで製品を応募し、事前審査を通過し、ユニークなアイデアや家庭用での作品や、今回出展予定の 過した。



「手応えは上位、世界めざす」

メイン作品は、香遊びの一つ「源氏香」で用いる独特の文様を、淡路瓦製のふたにデザインした香炉(縦、横10センチ、高さ8・5センチ)。源氏物語にちなんで名付けられた「明石」「夕顔」など52種類の文様を、特産の線香と組み合わせる。「将来、土産物として売り出せればいい」と考える。

このほか、矢がすりやうろこの文様を瓦製のふたにあしらったアクセサリー入れや照明など、約60点を予定している。

最優秀賞に選ばれば、ドイツである見本市の若手デザイナーを対象にしたダイニング、リビング部門のどちらかに出展できる。毎年30〜40組ずつが出場し、世界の市場にアピールできるという。

古田さんは「8組の上位にいたいという手応えは感じている。審査員にしっかりアピールして権利を獲得したい」と自信を見せている。

見本市に出す香炉のふたを持つ古田恵介さん(南あわじ市津井)